



『タンチョウの単調でない話』

葛西臨海水族園 山本 達也

葛西臨海水族園では、2013年3月からタンチョウの飼育及び展示を開始しました。タンチョウは、日本の野鳥の中では最大級で、国内で繁殖する唯一のツルです。また、昔の千円札や花札にも描かれているように日本では馴染みの深い鳥でもあります。

タンチョウは、漢字で「丹頂」と書きますが、「丹」は赤い、「頂」はてっぺんという意味で、頭のてっぺんが赤いためこの名前が付けられました。この頭のてっぺんの赤い部分は、赤い羽が生えているわけではなく、地肌がそのまま出ています。ニワトリのトサカのようなもので、近くで見ると小さな丸い突起がいくつも並び、まるで大仏様の頭のような様子です。また、興奮すると赤い部分は大きく広がるため、怒っている時はここを見ると簡単にわかります。

国の特別天然記念物に指定されるタンチョウですが、乱獲によって一時は絶滅寸前にまで追いやられてしまいました。しかし、様々な保護の取り組みによって個体数は少しずつ回復し、いまでは千羽を超えるタンチョウが、北海道の一部に生息しています。今後、地元ならびに動物園などの保護活動によって、北海道だけでなく、広く関東でも見ることができた本来のタンチョウの姿を見られる日が来ることを願うばかりです。



～水族園の“かお”～

葛西臨海水族園 ジャイアントアイソポッド

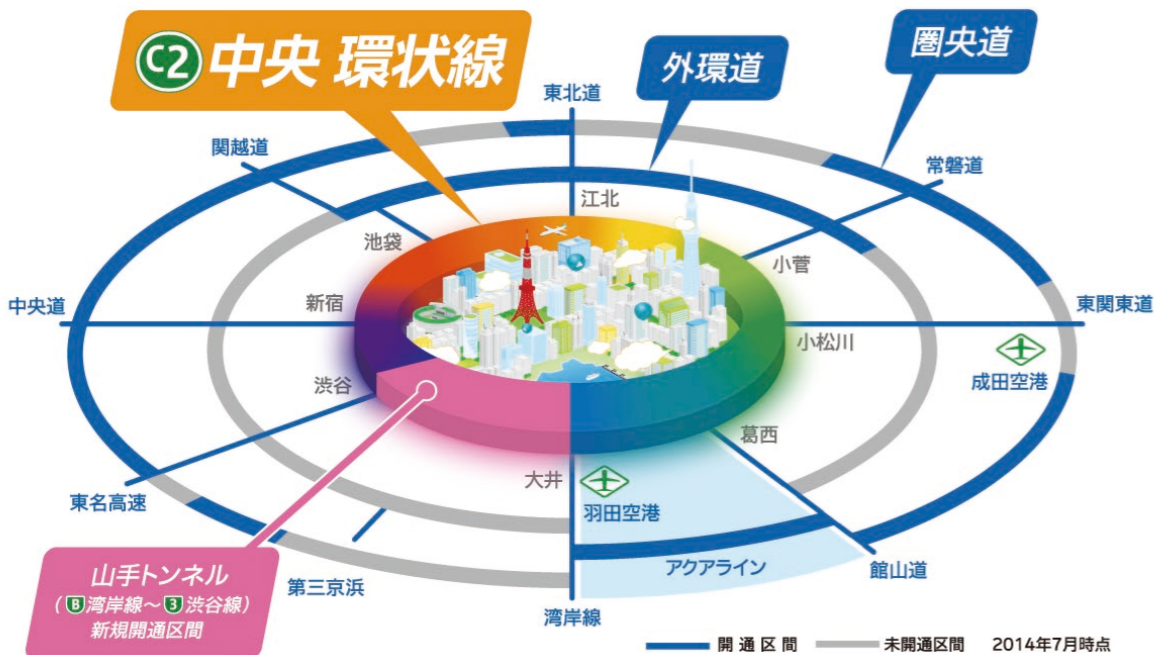
独特な風貌で話題のジャイアントアイソポッド（ダイオウグソクムシ）。「深海の生物2」水槽でご覧ください。



首都高速中央環状線が平成27年3月全線開通!

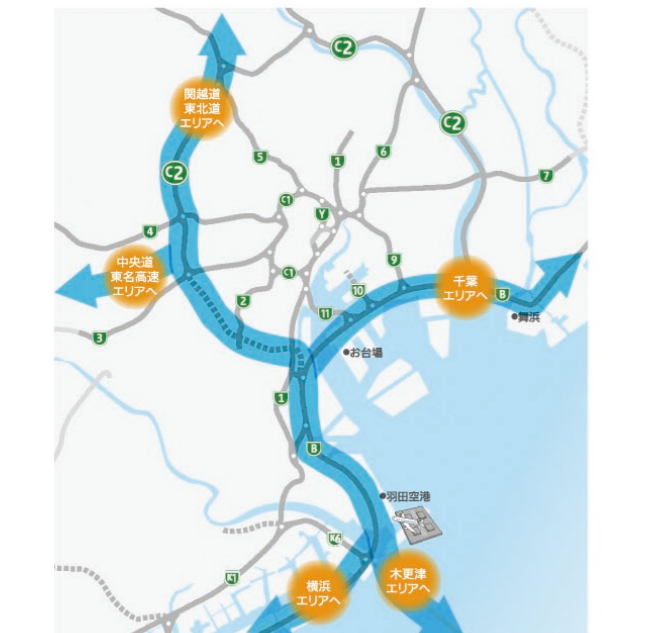
～首都圏三環状道路の最初のリングが完成～

東京都と首都高速道路(株)が共同で整備を進めている「中央環状線山手トンネル(高速湾岸線～高速3号渋谷線)-中央環状品川線-」の工事が進み、平成27年3月に開通することとなりました。今回、高速湾岸線の大井ジャンクションから大橋ジャンクションに接続する約9.4kmがつながり、中央環状線が全線開通するとともに、首都圏三環状道路(圏央道、外環道、中央環状線)の最初のリングが完成します。



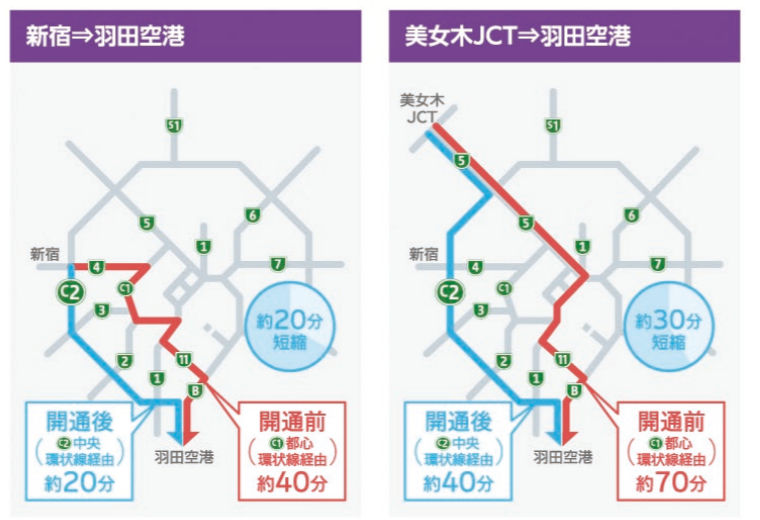
アクセス向上

中央環状線と接続する湾岸線の沿線には、たくさんのレジャー施設や商業施設があります。中央環状線を利用することで、中央道・東名高速エリアや関越道・東北道エリアからも、自家用車や高速バス等でのアクセスがよくなります。



時間短縮

新宿・渋谷等の副都心エリアや、関越道・東北道方向などから羽田空港へのアクセスが飛躍的に向上します。滑走路の新設、国際線の発着便の増加など、利用者が増大する羽田空港の利便性をさらに高めます。



※開通前:2013年度(平日)の車両センサーによる観測値 開通後:首都高速道路(株)の試算による

渋滞緩和

慢性的に渋滞している都心環状線は、利用する車の6割が都心環状線を通る交通です。中央環状線の全線開通によるネットワークの効果によって、これらの通過交通が分散され、首都高をよりスムーズに走れるようになり、定時性が確保されます。

